

校 報

名古屋電氣學校

4
昭和四年
十二月號

後藤鉦二氏入營さる

我等の若き校主、後藤鉦二氏は十二月一日、第三師團輜重兵第三大隊第二中隊幹部候補生として入營されました。鉦二さん——こんな親しい呼び方をする失禮を許して頂きたい。あなたの留守中は我々教員も今一段緊張の度を加へて出来る限りの精勵をつくす覚悟です。學校の方の事は御心配なく折角専心軍務に服して来て下さい。一年間は長いやうで短いです。又短いやうで長いです。何處にあるも若き日は黄金の價値をもつ。しつかりやつて来て下さい。私たちはあなたの御壯健を祈つてゐますよ。

昭和四年を送る

いよいよ昭和四年も餘すところ僅かになりました。誰しも年の暮れに際して多少の感慨なきを得ないでせう。實に時の流れは早いものですね。一年くらは直き過ぎて了ひます。全く古人の言つてゐる通りです。少年老ひ易く學成り難しです。うかうかと遊び暮したら取返しがつきません。私たち凡人は年の暮にはいつも悔むのです。今年の正月に立てた計のいくばくが果して實行されたか。何故もつと努めなかつたか。遊び過ぎた時のあまりの多さか。ふがひなき自分を嘆くのです。そこでですね。そこで今年の

年に役立てるんです。その後悔や不満が尊いのです。私たち凡物の唯一の取柄なのです。お互ひに来るべき昭和五年、一九三〇年への新しい望みに奮ひ起たうではありませんか。

(こわだ)

エヂスン翁

或時六歳の小兒が行術不明になりました。案じ煩ひたる父母は心當りの限りを限なく捜し求めましたが、焉んぞ知らん、失はれたる其の兒は蜻蛉釣りに行つたのでも無く蟬差しに出掛けたのでもなくて、手近かも手近か、自分の納屋の一隅に兀座し食事も忘れ日の暮行くのも心付かず一心不亂に自分の實驗を看守つて居たのでありました。實驗とは何でありましたらうか、諸君は雛を孵化せんとする母鳥が誰教ふるにあらで本能的に寢食を忘れ卵を掻き抱いて巢籠つて居るのを見たのでありませう、此の兒もそれを見たのでありました。此の可愛らしい穉き兒は幾日かを費して自分の手で孵卵器類似の巢箱を拵へ鶏の卵、鶯鳥の卵を所狭きま敷き詰めて今日しもジツと其の成り行きを見詰めて居つたのでありました。斯くして彼は人工といふものが何處まで成功し得るものなるかを自然に問はんとしたのでありました。此の兒は抑も誰でありましたか、是、ん實にエヂスン其の人であつたのです。

其の後十二三歳の頃でもありましたらうか彼は更に人間を實驗臺に上げて

印刷所 加藤 次郎
中京 毎夕新聞社

みた事がありました。自分に與へらるゝ小遣錢を貯へて多量の沸騰散を買求めて来た彼は自家の作男の手傳に雇入れてある自分より二三歳も年長の少年を強要して出来る限り手取早く而かも連續的に此の沸騰散を頓服せしめて篤と其の結果を諦視したのであります。之に關する記録は殘されてありませぬさうですが彼は之に依りて人間の腹中に發生する瓦斯は果して人間をして鳥の如く飛ばしめ得るや否やを驗せんとしたのであります。飛行といふ事に人間が可能性を持つといふ豫想は早くも彼の腦中に萌して居つたからであります。

彼は又自己考案の模型の電信機に猫の摩擦電氣を應用して實驗をしやうとしたのであります。結局失敗に終りました。そして其の失敗の原因を左の如く述べて居ります。

- 一、人間は科學に興味を持つけれども猫は毫も興味を持つて呉れない
 - 二、強度の摩擦を加へんとすればする程猫は頑強に之を拒絶する。
 - 三、人間の追驅けるよりも猫の逸走する方がズンと早い。
- 何んと面白い結論ではありませぬか。幼少の頃より既に斯の如き實驗に耽り失敗に失敗を重ねても倦まず撓まず次から次への偉大なる發明を積み重ねたるエヂスン翁に對し本月電燈五十年の黄金紀念祭を舉行するに方りては全世界の有らゆる新聞雜誌が必ずや翁の白熱燈其他に關する記事と論文とを以て滿載するであらうと信するが故。

等も亦一言翁に就きて言及したいと思ひます。

惟ふに翁は自然に對して討ねて罷まざる不撓不屈の研究心と好奇心とを有し人間として努め得る限りの克己心と忍耐力とを持續して現代人の如何なる人にも立優りたる獨創力を發揮し四角四面に發明の天地を開拓したる偉人であつて其の世を益したる功績は我等如何なる言葉を用ふるも適當に其眞價を品評する事の出来ないものであります。斯くも偉大なるエヂスン翁が其生涯中學校に就いて教育を受けたる事の僅かに三箇月に過ぎなかつたといふ事實は單りエヂスン翁其の人に執りて仕合せなりし事を證するのみならず翁の示されたる此の實例を見ることの機會を得たる我等も亦深く之を仕合せとせざるを得ないのであります。抑も少年時代の謂ゆる天才とか獨創力とかいふものは極めて軟弱なる者でありますから其の芽生えが如何に優秀であらうとも儒し其の環境の理解と同情とが之を助長し扶翼する方法を誤つたならば折角の芽生えも忽ち萎縮し枯渴してしまひます。學校教育も無論此の環境の一でありまして貴き天才貴き獨創力も他の無用なる學科の不出來の爲めに併せて叱咤せられ併せて鞭打れたらんにには嫌やとも萎縮し嫌やとも枯渴しなればなりますまい。我がエヂスン翁が幸に之を免れられたのは洵に仕合せな事でありました。由來教育なるものは、人間が自然に自己の頭腦の中に持つて生れて來た或素質、之を適當に助長扶

翼するならば自然に發育すべのある或素質、それを助長扶翼すべ

の働きの持つに過ぎないものであつて持つて、生れて來ても居ない新しい物を頭腦の中へ詰め込むほどの價值あるものと思ふのは畢竟教育その物を買被つて居るからの事でありませぬ。エヂスン翁が學校教育を受けざりしが爲めに豪れたる人に成り得たといふ實例は教育者は勿論の事一般人に對しても深く考へよ深く省みよといふ教訓を痛切に我等に與へられたるものであつて我等は目のあたり此の貴き教訓を得たる事を偏に仕合せとするのであります。同時に教育の達成は教へらるゝ者をして努めて實際を目撃せしめ且つ能く之を實驗せしめ之に依りて工夫せしめ之に因りて考案せしめ各自の天才と獨創力を自由に發揮するに便ならしむるに在りて百の講演千の説明一の實演に優る事能はざるを感じさせられるのであります。人才は校内に生れずして校外に育つものなることをエヂスン翁は實に雄辯に我等に語つて聞かせて呉れました。

から次へ世に有益なる何物をか爲さずでは已まざる意氣を續けて夙に起き夜半に寝ね拮据經營してゐるのでありませぬが老いて益壯なる翁は恐らく百年の終りまでも之を續けることでありませぬ。復た我等はそれを希望して已まないのであります。

蓋し翁の一千有餘の發明は悉く是れ實業的方面に向けられたるものでありまして隨て人間の利用厚生に直接に裨益するものである事は取立て、言ふにも當りませぬが同時に翁の富を得ることも却々莫大なるものであります。然るに翁は決して之を私的享樂に供せず舉げて皆實驗的費用に投下し、自ら奉ずる事の極めて薄きは眞に學者の典型と謂ふべきであります。亞米利加が産みたる此の偉大なる老人エヂスンなる名は單り現代に於ける世界の禮讚と欽仰とを博する名なるの

みならず恐らく後代幾百年かに及下再び出現する事無かるべき偉大なる名なりと信せざるを得ませぬ。今や米國は世界の第一等國として優越せる地歩を占めて居りますが此の地歩を占むるを得たる理由の中には實にエヂスン翁の如き千古罕に見る千兩役者が孤拳奮闘の絶技を演じて一國の尖端に大見得を切つて呉れた偉勳を數へざるを得ないのであります。

エヂスンと云へば天才、エヂスンと云へば發明、發明と天才との同一意義を併せ有するエヂスンの名よ、人類の文化に千載不磨の貢獻を與へたるエヂスンの名よ、我等は其名の黄金祭の爲めに滿腔の敬虔、滿腔の友好、無上の感激、無上の禮讚を捧げ持ちて長へに健在なれと祈るのであります。嗚呼久しかれエヂスンの名よ。
(米國電氣雜誌十月號の評論轉載、譯者不詳)

電燈五十年祭漫錄

こわだ 生

エヂスン翁が電燈を發明してから本年が丁度 十年に相當するので、アメリカ本國は勿論、諸外國及び我が日本に於ても十月二十一日に盛んな祝祭を催しました。名古屋に於ても同夜電燈入りの提燈行列を行ひ、我が校もそれに參加したことは未だ我々の記憶に新たなる處であります。後に新聞によつて知りましたが、ドイツの大物理學者アインシュタイン教授はその日無電を通じて遠くアメリカのエヂスンに祝辭を送つたとの事です。考へると愉快ですわ。人類の大恩人の發明の完成を祝ふんです。しかも、その發明が最も平和な、ちつとも破壊的などころの無い、光明の發明たるに至つては無條件に嬉しくなるではありませぬか。
あの日、私は子供のやうに嬉しくなつて、少し涙ぐんで了りました。そして歸り途で『日本も大分變つて來たぞこの分では有望だわい。』と思ひました考へても見て下さい。今までの日本で幅をきかしてゐたのは軍人と政治家と金持ではありませぬか。學者や發明家などが優遇と云へる程の優遇を受け

たことがあつたでせうか。「偉い人」と云へば先づ大將や大臣や大金持のこと

され、學者や發明家や藝術家、教育者等々は一段も二段も下に考へられてゐたのです。大まかがひです。現在の日本だつてまだ、その風が跡を絶つてはゐないらしいですが、その日本で電燈五十年祭を舉行し、エジソンの徳を慕ひ、その健在を祝はうと云ふので

す。うれしくなるではありませんか。よく云ふ事ですが、ナポレオンのやうな破壊的英雄は人類にとつて寧ろ厄介者であり、極言すれば不徳漢なので

す。勿論、あの時代としては歴史的環境の必然の然らしむるところと云ふべきでせうが、併し時代が進み人類がもつと賢くなつて來て居る筈の現代に於て、我々の要求し、待ち望む英雄は、もはやナポレオンのなそれではあり得ません。

諸君はカーライルの『英雄及び英雄崇拜』を讀まれたでせう。カーライルの英雄とは「眞摯の人」であり、そこには、ダンテやシェークスピアが擧げられ、マホメット、ルーテル、ノックス等も論せられてゐます。

私はつけ加へたい。釋迦や孔子が大英雄であることは云はずとするもガリレイやコペルニクスやニュートンやアラデーやアインスタイン等々をも英雄と呼びたい。彼等は皆建設的な、創造的な英雄です。老ひてなほ活動しつゝある我がエヂソンも亦英雄と呼ぶにふさはしいではありませんか。

古い手帳から

五風山人

自分の魂を養ふために、讀書の後、抄録した古人の言葉を、古い手帳から書き扱きます。こゝには、アラ、ギ派の泰斗である故島木赤彦大人のものを、赤彦大人は、大正十五年に長逝されたが、その和歌や歌論や隨想録には永遠の生命が光つて居ります。私は、この大人が歩まれた道程を思ひ、その人と爲りを慕ふ餘り、その片言を示して諸賢と共にその高德を仰ぎたいのであります。

x

〇概ね、人、褒められたるは夙く忘れ叱られたるは永く記憶す。師弟の間然り。親子の間然り。叱るの眞剣にして褒むるの甘たるきを證するに足る。褒められたるは當座に心地よく、久しきに及んで自ら空虚を感ず。叱られたるは當座に心地よからず、久しきに及んで自ら緊肅を感ず。世の教育者に待つ所亦然り。教育者の互に相待つ所も亦然り。……(中略)……左千夫(註赤彦大人の先生)の予の歌を容さざる久し。大正二年七月予の病兒を伴ひて東京に至るや、左千夫直に予の病院を訪ふ。手に予の着京を知らせたる端書を持てり。座定まるや直に予の歌の可ならざるを論ず。曰く君の歌は天賦羅なり。旨きには旨きも品格なし。石川啄木の歌の如きは天賦羅中の天賦羅なり。君等濫りに新しきを求めて時流に化するの陋なきかと。予當日下痢頻りにして腹痛亦劇し。廁に行く事一時間

數回なり。即ち抗辯せんと欲すれども亦堪ふべからず。勉強して曰く、生の言ふべきあるも腹痛堪ふべからず。願くば貴説を後日に聴くを得んと。左千夫眼を張つて曰く、予の説く斯の如し腹痛の如きは堪へられて可なりと。未より酉に至り、膝を進め、氣息を速かにし、縷説措かず。予遂にその魄力に屈せり。滞京二三日にして予の信濃に歸るや其の夜飛電ありて左千夫の逝去を報ず。蓋し腦出血なり。予驚愕措く所を知らず。則ちさきの腹痛を堪らへよと言ひしもの自から教を予に遺すに似たり。左千夫を思ふ毎にこの事未だ腸に徹せずんばあらず。

(附言——生死事大、無常迅速である。正師は道を思つて、之を眞の弟子に授けるに「明日」の日を待たない。この心あつて、よく大道を將來に囑し得るのである。誠に、古は、師弟の道を求め、道を得るに眞剣であつたことを思はねばならない。自省せよ。)

x

〇(前略)……東洋の大きな教としては佛教と儒教があるが、それ等は要するに、物慾を脱した天地の大道を示したものでないかと思はれる。嚴肅感を與へるのもそこにあるのではなからうか。菩提樹下に罌粟粒一粒で生きて居たといふ佛の行を考へて見ても、それは、一粒にしようとして、したのではなく、求めるものが他にあつたから、食は一粒の罌粟で充分であつたのである。現れた所から見ると、物的生活は簡素になつて居るのである。然し

一面には、物慾の要求も人間としての事實であり、眞理であると云ふ人もあるが、一應尤もであり、議論したら負けるかも知れない。然し、議論には負けても勝つていゝ。その物慾生活だけでは、どうしても吾々人間に承知出來ない所がある。

どうも、東洋人には、かう言ふ方法をして居る所がありはしないか。孔子の教へもさうではないか。脛を曲げて枕にして居ても心のうちにはたのしい所があると説いて居る心持のうちに、矢張り同じ傾向がある。

之を何といふべきか知らない。私は自分では『鍛錬道』といつてゐる。吾々にとつて、最も大切な一点へ全心を集中することであつて、一ヶ所へ集中すれば、他のものは要らなくなつて來るのである。佛の行もそれであつて、一ヶ所に集中すると、物界などには心が傾かないのである。

今の私たちの實際に於ては、この反對のことが多く、心が分岐して困るのである。そこで私たちが、この『鍛錬道』を求めらるのであるらしい。所が、この鍛錬といふ言葉は、兎角誤解を生じ易い。どうも不自然な事でもするやうにとられるのであるが、私の言つてゐるのは、さうではない。日常の生活において、意義を持つてなすべき事の一点に心を集中する点にあるのである。學校の教育などに於ても、夏の暑い時に綿入を著せ、冬寒い時に足袋をはかせないといふ様なことをするのが鍛錬だと心得て居るむきもあるやうだ。そ

れば尤ものやうで居て、最も不自然な道である。「鍛錬道」はそんな所にはない。寧ろ、一時間の授業に於て、教授者と児童とが其の時間の仕事の上に一心を集中するといふ事が、時々刻々に有り得べき事の様でありながら、事實は無い。そこに鍛錬の工夫があればいいのである。穿き違へて、人情の自然に背くのはよくない。芭蕉など見てもあの嚴肅な精進の一面に人なつかしい心情が存するのは鍛錬道と自然道と背馳してゐない所であつて、見おとしてならない所である。良寛など見ても、決して不自然な悟り顔はしてゐない。或る人に贈つたといふ歌のうちに

あづさ弓春になりなば草の庵をさく
訪ひてまし逢ひたきものを

と詠んで居る。「逢ひたきものを」が人情自然の現はれであつて、ありがたひのである。(中略)……

孔子は音楽が好きで、音楽に耽つて居る時は、食物も食べたくないといふ様な意味の事を言つてゐる。又ある時に、お弟子たちが、各、大した望を言ひあつて居る中で、或る一人が、私は子供と温泉へ入つて風に吹かれながらかへり度いと言つた時、孔子は(我汝に與せん)とも言つてゐる。そこに人間らしさを感じるのである。一切衆生皆可愛いが、一番可愛いのは、矢張おれの子のラゴラだと釋迦もいつて居る。そこがありがたひなのだ。要するに、人情に根ざして居て、しかも全心を一点に集中するのが私のいふ「集中道」であり「鍛錬道」である。(下略)

(以上山房漫語)

(附言——鍛錬道の根本精神を説き、東洋の道の眞髓は那邊に在るかを示した千古の言である。一道に徹した至上人の言葉には深い眞理がこもつてゐる。幾度も反覆して玩味したいものである。)

小生、先年夏の盛りに、長崎に用事があつて、同地十橋氏の宅に七日ばかり厄介になつてゐた。その時、平戸の小國法師が訪ねて来て、二日ばかり寢食を共にした。此坊様が朝佛壇の前に坐つてお勤めの讀經をしてゐると、うちの幼い二人の子どもが、異様の音聲に驚いて勝手から走つて来て、坊様の後ろに立つた。坊さまのお勤めといふものを生れて初めて見たのであらう。

一人の子どもは視線を丁度水平に置いて坊様の頭を見てゐる。一人の小さいのは視線を上に向けて同じものを見てゐる。二つの視線の出逢つた所に丸い頭があるのである。この頭は不可思議の頭である。第一に、誰も頭が持つところの毛髪を持たない。従つて又誰もが多く見せない頭部の凹凸面を露出してゐる。子どもは今まで経験したことのない頭の形状と光澤とを觀察するといふ目をして熱心に坊様の後ろに立つてゐる。そのうちに、視線を上に向けてゐたのが、手を伸ばして不思議な對象物に觸つて見た。坊様は驚いて後ろを振り向いた。その時、小生「坊様が負けな」と思つた。お勤めが終へて、朝の茶を飲む時、小生坊様に向つて「負けました」と言ふと、坊様も「負けました」と言うて笑ひながらその

頭を撫でた。(下略)

(附言——是は正しく一幅の好漫語である。讀む者をして自ら微笑せしめる。人生の嚴肅なる難關を、通過し得て初めて、諧謔の餘裕を生むのである。而して、子供は、天真流露、常に無邪氣である。人生の荒蕪たる旅路のオアシスは、この思無邪の喜劇者のみである。大人にして、童心なき者は、子供の世界に通ずることは出来ぬ。吾々は、如何にせば、大人より子供に還り得るかを考へねばならぬ。)

(昭和四年十一月十五日)

外國語問題の側面

こわだ生

少しばかり余白が生じたから再び外國語問題に就て書いてみる。この度は工業教育との關聯に於てなく一般問題として、外國語尊重の最もいけない点は、それによつて日本人が自卑に過ぎたやうさへ謙讓の美德を持ち過ぎる我が國人をして更に一層卑屈の域にまで墮せしむる事だ。

ひいては日本語を輕蔑する事となつて二重の損失を招き、生き生きとした日本文化の創造發展を直接にも間接にも阻止してしまふ。(傳統への沒理解に陥る弊については他日書かう)

英語やドイツ語やフランス語など日本語と何れが大切であるか。それすらも分らぬ程の盲目が多いのだ。

高等諸學校の入學試験に外國語をあらにまで重要視してゐることからして抑々見識の無い話だ。現状やむを得ざる理由はあらう。併し、そのやむを得ざる理由を取除き得るやうに努力しなければいけないのだ。

多少反動的な言ひ方であるが、英語雄辯大會とか云ふものを此の日本で開

催し、日本人の學生が英語でしゃべつて、それを英人が得意さうに批評する笑ひ事ではない。そんな風だから外國語を優れた言葉、外國人を皆えらい人だど若い頭に刻みつけてしまふのだ。

一つ日本在住の外人を集めて日本語雄辯大會を催し、日本人をして、その批評をさせてみては如何。呵々。

みんなが眼をさまして欲しい。云ひ古したことであるが外國語を通じてどしどし外國のいゝものを採り入れるのは大にいい。だが歸するところ、それは日本が主にならねばいけない。日本文化の内容をもつともつと深いものにするためにこそ外國書もよむのだ。かく云ふ私も當分そんな本を讀む必要に迫られてゐる。併し少々耻かしい。そんな態度で外國書をよまなくてもいいやうに早くならない。

こんなこと論じ立てること、ちと大人氣ない氣もしますね。

(十二月五日)

編輯の後

校報の發行が不定期になることは最初からの豫定の行動ではあるが、自分の念願としてはもう少しまきまりをつけてやつて行きたい。自分の怠惰をさへ退治すればそれは容易に出来ることである。いつものびくびくに發行が遅れるのは自分としても耻づべきことだと思つてゐる。

昭和五年は是非とも、豫定を立て、それに忠實に従つて行かうと思ふ。發行毎に次號の發行日を豫告して必ずそれを嚴守しやう。もう直ぐ正月だ。筆不精の私は年賀状も失禮しますが悪しからず。(こわだ)



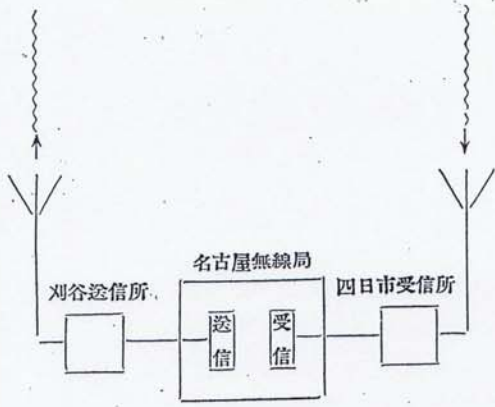
同窓會欄

第三回見學記 江本 巴

第四回見學は、二月上旬(日曜)舉行の豫定である。見學場所は日本電子及日本車輛にて、日下交播中である。未だ承諾は得てないけれども、我々の爲めに門戸を開放される筈である。
就いては支部所屬外の會員で見學參加希望の方は、其由を本部まで申込まれた。そして、確定次第、毎回御報せするから。

第三回見學は、去る十月二十七日舉行された。参加人員三十七名にて、各自汽車又は電車によつて、東海道線刈谷驛前に集合。三々五々打連れて黄金なす稻田の間を、日本無電の對歐無線の送信局へと向つた。

前日來の颯風は、遠く駿河沖に去つて、夜來の強雨は名残なく晴れ、唯幾らかの風はあつたけれど、豊かに穂つた稻田に、黄金の波を起して、却つて一入の風情を沿へたのであつた。
此の對歐無線局は、名古屋無線電信



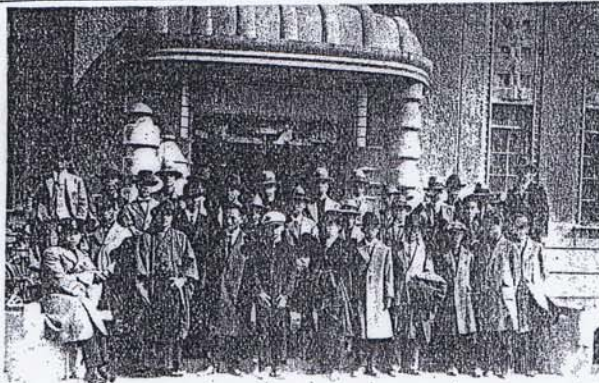
局と呼ばれ、送信所を刈谷附近に、受信所を四日市附近に有し、送受信の線作は、中繼線路によつて、名古屋郵便局裏の名古屋無線局に於て行はれるものである(次圖参照)

我々の見學したものは送信所であつて、十五萬平方メートルの地域を有し、獨逸テレフンケン製の周波數變換器付發電機式、波長一七二〇〇米、空中線電力五〇〇キロワット以上、通達距離一二〇〇〇米以上の能力を有するものである。

刺を通するや快く一同を案内されて先づ一室に入り、統計や、圖表や材料によつて詳細に説明されたのであつた
空中線は、高さ二五〇米の鐵塔を四基宛二列に建て、相對する鐵塔毎に張線を張り、この張線に特殊の碍子を吊り其下端にアンテナ線を吊すものである。結局アンテナ線は、四基の鐵塔の列と平行に吊されるものであつて、八本宛二組を送信局に引込まれ、逆L型を形作つてゐる。
この鐵塔は、下端に到つて尖り特殊の絶縁臺の上に乗せられてゐるもので

あつて、送信中は電波の爲めに數萬ワルトの電壓を誘發するといふ。誘導と云へば、後に機械室で面白いものを見た。即ち、數捲のコイルが吊されてゐて、其兩端に電球が接續されてゐたが、この球は送信のシグナルと同時に明滅してゐた。題して『無線電燈』と命名されてゐた。

地線としては、マルチプル・アーチを使用してゐる。即ち、アンテナの



無線局正面に於ける一行

下に、巾八八〇米、長さ一七八〇米の地面に深さ六〇厘の地下に無數の地板を埋め、各地板に平等の電流が通する様、特殊の架空饋電線によつて機械室に引込まれてゐる。

機械室に於ては、三相、六〇サイクル、三三〇〇ヴォルト、約一〇〇〇キロワットの電力を受電し、先づ三相誘導電動發電機によつて、八〇〇ヴォルト

の直流を得るのである。この直流は高周波發電機に直結された直流電動機に加へられる。この高周波發電機は、誘導型にて、電壓八〇〇ヴォルト、電流一〇九〇アンペア(通信出力にて)毎分の廻數數一三六〇回で、五八一四サイクルを發生するものである。この電力は、周波數變換器によつて、三倍即ち一七四四二サイクルに變換され、之をアンテナに加へて一七二〇〇米電波を放射するのである。

この機械室に於て、特に監視を怠らない点は、發電機の廻轉數である。若し廻轉數に變化を生ずれば、周波數に變化を生じ、延いては波長に變動を來して、通信に障害を及ぼすからである。聞く所によれば同所の速度變動は極めて小さく、一萬分の一以下であるといふ。

信號は、直流勵磁により、周波數變換器鐵心の磁氣誘導を増減して行ふ方法によるものであつて、毎分六〇語以上の送信を行ひ得るといふ。

尙同所には、我が海軍の考案になる純國産の十キロ短波長送受信器を有し、又十五キロのものを増設中であつた。この短波長送受信器は、極く狭小な室内に納められ居り、且其の空中線は、十數本の木柱を立てた簡單なものである。短波長の進歩は、この様に簡單な機械及裝置で、即ち僅少な經費で、立派に通信を行ひ得るのである。従つて長波長の無線局は、名古屋無線局を最後とし、今後の無線通信は總べて波長によることになるであらう。

第三回見學附記

十月二十七日に實施シタ第三回見學ノ刈谷無線電信局ノ設備概要ニ就テハ別稿江本氏記事ノ通りデアルガ、此ノ裝置ガ如何ニ世界的ノモノデアルカラ示スタメ次ノ表ヲ添附スル。

代表的大無線電信局一覽表

Table with columns for Country, Station Name, Location, Equipment, Power (KW), Base, and Height (m). Includes entries for Japan (e.g., 磐城, 北見), Europe (e.g., 倫敦, 巴黎), and others.

一部會員の消息(4)

第一回 五十嵐眞一郎

岡崎電燈株式會社

此の所には同窓會員が六七十名は在職の由。先輩では第一回の加藤逸三君第二回の河合三郎君、第十三回の森山博應君、第八回の尾崎喜三郎君、第十六回の宮川巨君等出世の人が多し。

加藤逸三君は會社の工務課長の要職にあり在學中は紅顔の美少年も、今は口ひげ生ひ茂り當時の面影なし、但し黒緑の眼鏡だけは昔日は變りなし。

河合三郎君も會社の發電課長代理をして居たが、近頃は會社の主力である大濱火力發電所主任をやつて居られる全君も近頃はよいお父さんになつて居る。

此の所には未だ會員の確實な俱樂部とか會が構成されて居ない。之れば是非大先輩である加藤、河合兩君の熱心なる御盡力を願はなければならぬ。是非此の際立派な支部を作つていただきたい。

三河鐵道(舊岡崎軌道) 岡崎軌道は今日三河鐵道と合併して岡崎支社になつて居る。全軌道には主任技術者で久田芳次郎君第十六回が居られる由。其の外數名は會員が在職のはすよくは小生知らぬ。

東邦電力豐橋營業所 茲には先般轉任したはやの第一回の未松七之輔君が工事主任が何かで納つて居る。他の在職會員はよく知りませんが、此の豐橋市内には豊川電鐵屋

美電鐵豐橋軌道、水窪川水力等の諸會社がある。此れ等の會社にも多數會員が在職して居らるゝ事と思ひますが、不幸にして小生は知りませぬ。

未松君も名古屋に居ればいやでも本部役員に引張り出されるのだが、豊橋へ行つた爲め役免れの体になつた譯けたから一つ豊橋市在住の會員諸氏を勧めて是非共支部を造つていたゞきたい切に御盡力を希望します。

美濃電氣軌道 茲には勝野幸重(第六回)始め多數の會員が在職されて居るはず、勝野幸重君は全社の配電課社の要職にありてなかのやりての由。

先般逢つた時には岐阜市内に相當多數の會員が居られて時々會合される様に聞き及びましたが、此の際正式に支部を組織して本部へ届け出てられんことを希望します。(岐阜エレクトリシ發電會以前に書かれたものであることを御承知下さい編者)

其の他惠那郡明知町營電氣部には主任技術者として第八回の西尾茂樹君。東邦電力犬山變電所主任室出張主任として第一回の神谷武則君。尙ほ遠く奈良縣高田町の東邦電力全變電所並び主任として第四回の加藤勇吉君、近く稻澤電燈の主任技術者として第四回の確氷利君等あり。

小田原急行電鐵の次長として第二回の花井四郎藏君あり麗名高し。大阪市には第一回の杉浦藤一君が杉浦製作所を經營して全君獨特のボタンを取つて製品を市場に多く出して居る。ラジオ充電器のネムープレートを御覧になることがあると思ひます。

尚ほ又個人商會或ひは電氣關係の會社等に於てなか／＼出色の會員の方もまだ／＼書き盡せない程居られますが紙數に限りもありますから甚だ遺憾ながら母校の江本、荻野兩君を以つて一先づペンを置き後日に譲ります。

母校!!

江本 巴君 第十五回(卒)

荻野正次君 第二〇回(卒)

兩君は母校の先生として傍わら本部役員として實に終身役員の感ありて誠に兩君に對して御氣毒の至りに堪へませぬ。

母校が本部事務所となつて居り、母校と同窓會と離る可からざるものであれば、兩君を度外して本會の事務は遂行されないのである。従つて何ら同窓會として酬ゆることなく、内閣の如何にかゝわらず兩君を役員としてお願いして居ることは甚だ恐縮の至りで、誠に申譯けありませぬ。母校對同窓會の間の重要な接續係として本會の爲め母校の爲めに當分の間御辛抱を願ひたいと思ひます。

甚だ末筆であります。吾人は茲に兩君に絶大なる感謝をいたすと同時に、尚ほ一層の御盡力を希望する次第であります。

(京都支部は實に盛大でありまして常に消息が發表されて居りますからの際必要がない様ですから今回は控へます)

(終り)

五月五日夜、都東池下

暮春の夕べ記す。

會員通信

校報を手にして

第三十一回 小野田 正

校報を有難たうございました。校報を手にして今更乍ら母校のなつかしさの強いのを感じます。

在校當時、馬鹿氣てゐると思つておたことや、腹立しかつたことが、今の私にはなつかしいものになつて居るのに氣付きました。

校報は在校生よりも卒業生によつて尙一層其値打を現すものであると思ひます。

校報は卒業生に微笑みを——在校生にない——もたらしめます。

會の發展を祈る

二十九回 芦澤 荒次郎

墨縁に成り切つた眞夏も過去つて、冷風朝夕顔をなで、勉學にも勤務にも好きシーズンと相成りました。

先生方御一同には御壯健の由、大賀に存じます。今日御送附下さつた校報を拜讀致しまして、役員の方には御健在にて會發展の爲に御活動の様に拜承致し、厚く感謝致しますと共に、今後益々會發展の爲に御盡力有らん事伏して御願ひ申上ます。

懐しき校報は、校門を去つた我々に取つて唯一無二の慰安であります。卒業後心待に待つた校報は、全然御送附無く、單に同窓會とは名のみかと思はれて、實に残念で御座いましたが、突

然第二號に接した時は實に懐しく御座いました。

校報は、有形に無形に校門を去つた者に與ふる所多きは言ふ迄でもありません。先生方又役員御一同には何卒吾々卒業生在學生の精神修養の爲又有益な技術者と成さんが爲の信條を書かん事を御願申上ます。

私は左記へ勤務致し居りますから御通知申上ます。

豊年製油株式會社電氣部

(或は鈴木商店)

現住所 静岡縣庵原郡由比町西山

近況

二十七回 松原 一政

いやな／＼梅雨も明け、久し振りで氣持良い青空を見る事が出来ました。皆様御變りはございせんか。つい永らく御無音に打過ぎ、誠に申譯ございせん。昨日郷里へ歸へりましてやつと校報の二號を受取りました。

過日入社してすぐ勤務先を御知らせした筈ですが、其後の通信は皆里の方へ參つてゐます。どうした事でせう。若しや名簿の書違ひではないでせうか兎に角改めて御知らせします。校報を讀むで母校の盛なる事を知り、思はずフレイ／＼と呼びました。僕も近くに居るものなら、會合にはきつと出席して、皆んなの氣焔を御聞きするのですが……。

まあ良い校報を通じて御伺ひする事にします。そして會費は別にすぐ御送り致します。

僕も諸先生の御蔭で二三六五〇KV Aの火力發電所で勤務してゐます。この發電所は水力の様に山奥と異つて、山は長く海は廣しと云ふ絶好の所に二百五十尺の大きな角を二本立て、角ばつた体を横たへてゐるのですよ。近くへ御旅行の節は是非御寄り下さい。是からも變つた事があつたらすぐ御知らせします。

すみませんが三四號の校報は當地へ御送り下さい。御願します。

最後に會の益々盛にならん事を御祈ります。

和歌山縣海草郡紀三井寺村

京阪電鐵琴之浦發電所社宅

本部だより

一、昭和四年度名簿に就いて

同窓會事業の一つとして、名簿を發行する筈でしたが、種々の都合上來年度に延すことになりました。多分三、四月頃發行し得るかと思ひます。

名簿原簿は最近出來ましたが、第二十九回以後の卒業の方々は勤務先が不明です。甚だ御手数ながら御一報下さい。又、昭和二年以後變動のあつた方は、勝手ながら既に通知済と否とに拘らず今一度御一報を煩し度う存じます

一、工場見學に就いて

一ヶ月置きに有志の工場見學を行ふことになつてゐます。今後は其都度「會報」に發表したいと思ひますが、參加希望の方はハガキで申込んで下さい其都度御報せします。

れ本館は大したものであらう。此の大きな所だから一寸見當が付かぬ。とに角同窓生は百七十名内外は居るでせうだが名簿を作つて居らぬから、自分の會社にどれだけ居るかはずきり分らぬ由。名古屋支店の電燈課には高井宮内君、第十四回(卒)が居る。全君は非常に精勵な人にして、頭腦明晰、電燈課として無くてならぬ人、電燈課の樞要事務には必ず全君も顔を出して居る。事程左様にやり手なので、演説も座談も甘味い、時々ラジオの放送もやる。全君も本會の爲めには非常に熱心な人であるが、何分重要な人だけに非常に多忙で、近來顔を見ない。然し蔭に陽に本會の爲めによく盡してくる。何か大きな懸親會等の場合は、すぐ全氏をわづらはして、會場の方を頼むといふ様に、よく全氏に依頼する。先年の本會の名簿作製の時などは、一つに全氏に待つこと多大であつた。

尙電燈課内線工事係には石野常次君第二回(卒)が居られた筈だが今健在ならんと思はるけれど、小生其の後面會の機を得ず。全氏には東邦の内線工事者は時々無理を願つたものだ。

技術部關西支部

茲には電話係の中野順君(第一回)が居られる。先年まで名古屋通信局に居たが、近來東邦へ入社せられた。全君は尺八の名人、弟子も相當にあつた由だが東邦へ入社以來多忙の爲め弟子を取られないようだ。

全君も本會創立以來の役員だが、一時隱退の形ちで居たが、本會更生の爲めに一肌ぬいで下さるごこと。斯様に

に先輩達がどしどし出て呉れるのは誠に喜ばしい。是非御盡力願ひます。事務係には第六回(卒)の下條彌蘇雄君が居る。本會創立の功勞者の一人。全君も名古屋支店の高井君に比的して關西支部では重要な役目をやつて居る。東邦運動關係は殆んど全君が幹事の由。謠が名人で此の頃は弟子達に教へるに忙しく、加ふるに會社の事務が又多忙で旅行に旅行を重ねて居て、本會のこともよく裏面では盡して呉れる。出席する暇がないので。全君も残念がつて居る。更生の同窓會には、全君にも一肌ぬいでもらはなくてはならない。是非御願ひします。

尙電氣課荷重係には多數同窓生が居らる。神谷清次郎君や稻垣虎雄君などが先輩。此の人達は晝夜更替なる爲めなか／＼本會に出て來ることは六つかしい。毎日大東邦の送電配電の心臓を握つて居らることで、さぞ氣勞れのポイントもあると御推察します。内面的にも本會の御援助を願ひます。

名古屋支店の試験係として阪梨健二君第二回(卒)が新柳町の舊館に居る。

六尺豊かな巨漢、一時は全氏もよく本會のために盡されたが、近來は本會の不甲斐なさに見切り付けたか、一寸も役員會へ顔を出さない。非常に親切な

そして正義な常に一個の定見を持ち、是なりと信すれば之を徹底する人で、得難き人であるが、斯様な人は是非共本會更生のために一肌ぬいでいただきたい。東邦電力の支部としても、是非全氏を役員に擧げていただきたいものだ。全君は園藝に興味を持ち、自宅に

温室を備へ、なか／＼天狗の域を脱して専門家はだしの腕前へ。若し會員にして園藝に志ざさんとする人は、先づ全君につきて教を乞ふ可し。

東邦電力武平町變電所主任に第一回(卒)の井戸李三君が居る。他の變電所の主任兼任をして居て、大多忙なる由全君はなか／＼かの交際家で、座談をよくし、ユーモアを混ぜて、實に愉快に談ず。全君も更生の同窓會の爲めに一肌ぬぐ由。切に御自愛を祈る。

烏森變電所に、第十六回(卒)の大脇保君が居る。同回の卒業生としては、異彩の出色にして、全氏の爲めに切に御自愛を祈る。全君は同窓會の更生の相談の時には、遠い所を態々やつて來て熱心に意見を吐かれた。是非本會の爲めに一骨折られんことを希望します

大同電力昭和電力矢作水力其の他
小野光君が全所に居られた頃は、よく全君が世話人として、大同系を代表して出席されたが、小野君が瑞穂變電所へ轉任されて後は、どうもうまく揃はぬらしい。近頃では小生も幾人位居るかさつぱり分らぬ。

昭和電力の電氣課に鬼頭史城君が居たが、全君も東京の出張所へ轉任されたから差當つて知つて居る人がないので様子が分からぬ。史城君は鬼頭孫三郎先生の長男で、頭腦明晰、殊に數學の造詣深く、他の追従を許さぬものあり唯今東京帝國大學内丸教授の下にあつて數學研究中である。切に健闘を祈る。大同、矢作、昭和の三社其の他會社に就職して居らる會員諸氏よ、是非團結して下さい。若し御好意があれ

ば、現在の會員の状態を詳細に小生へでも知らして下さい。

高岳製作所

茲にも多數同窓生が居るはず。不幸にして小生はよく知りませんから他の知つて居る方に譲りませう。茲の常務取締役は恩師佐々木綱雄先生。社長の「貝塚榮之助先生も恩師、小生等は忘れられぬ先生である。

愛知電氣鐵道

茲には同窓生が六、七十名居る由第一回(卒)蟹江銀之助君、第三回(卒)の高濱龜太郎君、第六回(卒)の酒井梅吉君等が先輩。蟹江銀之助君は電氣課の配電主任。此の人はI.Dクラブの會長と云ふことになつて居るが、どうも本會の爲めに不熱心。是非馬力を掛けていただきたい。

第三回の高濱龜太郎君は、電燈課の内線主任。此の人も同窓會には不熱心の方だ。是非更生の本會の爲めに一肌ぬいでいただきたい。

酒井梅吉君は今時めく電燈課長の要職にあつて實に適任である。人に接するに巧みにして、要領を得。如何なる面會者と云へ共非常に氣持のよい感

を與へしむる手腕がある。殊に需用者に對しての應接の手腕は、格別なるものあり、決して高く倅まらず、愛電課長中の出色人物なりと思ふ。全君は盆栽を趣味に持ち庭前は勿論、屋内にも所狭きまでに置かれてあり、之れ又素人の區域の人にあらず。東邦の阪梨君は前期まで理事理事長等をやつて居たが事務近來殊に多忙にて殊に自宅が横

須賀町のことゝてなかく思ふにまかせず、止むなく本會にも時々欠席勝ちであつたが、I・Dクラブの創立其他全所會員の爲めに指導する所多大なり。蔭に陽に本會の爲め益々盡されんことを祈る。(つゞく)

昭和四年度春期大會

一〇九名の新會員を迎へた本會に於ては、新會員歡迎を兼ね春期大會を三月二十一日午後一時より母校講堂に開催した。

會計會務報告の後下條彌蘇雄氏新會員歡迎の辭を述べられ、續いて新會員總代西尾友信君の入會の挨拶があつた。次に鬼頭、小和田兩先生の御話があつて、會員の五分間演説に入り、新舊會員交々立つて各々其感ずる点を披瀝したのであつた。

更に餘興に入るや、此處ぞと各自の隠し藝が連發されて時の經つのも忘れ最後に三輪桃水氏の錦心流琵琶あり、半日の歡を盡して散會したのは四時過であつた。

會員諸君へ急告

校報第一號で『第二號からは會費を拂ひ込んだ者へのみ送ると書いたが、種々研究の結果、兎に角三、四號頃まで會費の拂込如何に關らず校報は届けるところとした。

それに本號から同窓會欄を三頁に増して、種々の報告や會員の氣焔を満載することにした。切に投稿を歓迎する。三、四號頃までは無代で送るから、読んで戴きたい。そして之は面白いと

思へたら昭和四年度會費金一圓也を拂込んで戴き度い。本年度末には『會員名簿』も發行の豫定であるが、名簿は會費拂込者にのみ送附することになつてゐる。

會費のことは又三、四號で拂込法其他につき記すことにしやう。

次に本年度役員は其事業の一つとし



(通信電氣俱樂部)

て『名簿原簿』の完成を計畫して居る。それにしても、此前多大の勞力を支拂つて作成した名簿は、其後二ヶ年の時日を経てゐる爲め可成りの變動があるに違ひない。就いては、御手数數年別項の切抜きに各自の住所其他を記入して本部内江本巴宛御送付願ひたい。之

要 摘	數回業卒	
	先務勤	所住
名 姓		

は義務として、本誌を受取次第發送されたい。其から『二十九回以降の卒業者』の住所は未だ原簿に乗つてゐないから特に御忘れなく御一報相願ひたい。又左記の諸氏の住所不明に付き、若し御承知の方は至急御一報相願ひ度い。吳々も申上げて置きますが、住所の不明又は變更届の出で居ない方には、校報が届かないであらうし、例へ届いても日時が遅れる事を御承知相成たい。

1 之部

四石谷清光 八伊藤善太郎 八伊藤庄一
 九伊藤卓爾 九伊藤賢二 二伊藤明
 一三池上十藏 一七岩田 淳 一九岩田文男
 二二伊藤英之助 二三岩田 弘 二三伊藤泰行
 二三稻葉金男 二三伊藤勇三 二三稻葉幸一
 二四石川儀三郎

ハ 之部
 一早川宗次郎 一原義雄 一三長谷川席太郎
 二三萩原登代重 一四林 喜郎 一七林多美三
 二二林 勉 二一花井武雄 二二橋本清一
 二一八田英雄 二三服部松次郎 二三峰谷秋信
 二四林 信榮 二六林 島一 二八萩原 昂

(以下次號)

會員の動靜

- 會員の動靜が大分留りました。次に記したものは其一部です。残りは次號に續けて連載します。尙動靜の通知は名古屋電氣學校同窓會内江本巴宛の事
- 卒業次數 氏 名 勤 務 先 住 所
- 15 河合 義宗 愛知電鐵西尾社庫
 17 飯田 京一 東邦電力瀨戸變電
 17 西田 勤 名古屋鐵道古渡變電所
 16 仁田 保人 東邦電力島森發電所
 15 大脇 銀重 日本電報通信社名古屋支局寫眞電送部
 17 丹羽 秋重 名古屋市中區烏森町須崎八〇
 15 濱島 春吉 名古屋市中區千早町二丁目四一
 29 佐藤 數弘 愛知中央鐵道電 縣下西春日井郡山甲村大野木甲一一三戸
 30 山本 英一 名古屋鐵道株式會社電氣課 名古屋市中區千早町二丁目四一
 10 椎名 弘 愛電西浦變電所 縣下知多郡西浦町古場嶺新内
 26 篠田 繁雄 名古屋市電氣局工務課車輛設計 岐阜市鷺谷町二地
 26 森 重夫 菊井紡績名古屋工場電氣課 名古屋市中區北一色浦山八五
 26 小原 次郎 鐵道省東京電氣事務所 東京府下大森馬込町谷中一一四九
 26 佐々木 清 京都市電氣局電路係 京都市上京區田中大久保町市營住宅九重虎雄方
 26 佐々木 清 アルフレッド・ハーバート リミテッド名古屋出張所 名古屋市中區千種町茂佐裏一五一